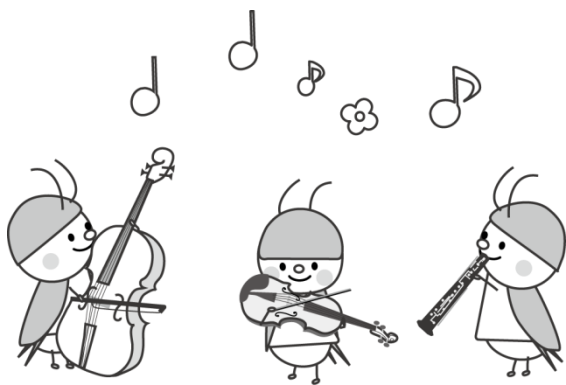


ほっと通信



日頃より巡回相談チームの活動にご協力いただき、ありがとうございます。今年度は例年以上にお申し込みを多くいただき、訪問をお待たせしてしまうことも出ています。すぐにお伺いできないもどかしさを感じながらも、特別支援への理解やニーズの高まりに我々も気を引き締めているところです。

ご理解の程よろしくお願いたします。

今年度の教育支援課 相談担当 巡回相談チームの職員は以下の通りです。

- 主査（市職員） 菅原 慎逸
- 研究主事（市立小中学校 管理職経験者） 朝倉 正教 ・ 小井塚 洋一
- 心理相談員（市嘱託員） 相崎 めぐみ ・ 近藤 正美 ・ 齋藤 登
- 特別支援専門相談員（作業療法士／市嘱託員） 大月 逸平

新たに作業療法士がチームに加わりました。より幅広い専門性で対応していきます。



“ありがとうな行動”の意味に気付くと...

『意味のない行動はない』ということが言われます。その理由が受け入れられるのかどうかは別にして、「なにか理由があるのかな？」と考えることは、やっている子どもたちにとってはもちろんのこと、支援する私たち自身にとっても必要なことだと思います。

子どもたちそれぞれの年齢、その日の状況など、条件の違いもあるかと思いますが、ちょっと困った行動をしているのを見たとき、ひと呼吸入れて、注意する前に「どうしたらいいのか、上手な解決方法が見つかっていないかも？」と考えてみることで、少し違った対応ができるかもしれませんね。

「知ることは、理解すること」…「理解することは、認めること」

ちょっとしたことですが、今回の内容がそんな関わりができるためのヒントになればいいのですが…。



集団行動の中での “ありさうな行動”

の意味について考えると...

安心できる雰囲気、居場所のある学級！

行動の意味を知ることが、どの子にとっても、心のユニバーサルデザインにつながると思います。

対応

見立て

行動

家庭に連絡が伝わっていない

たくさん言われると混乱してしまう

- ★チェックカード
- ★やることを1つだけに絞る ⇒ 終わったら次の指示を出す

- 忘れ物が多い
- 片付けや整理整頓が苦手
- やることに時間がかかる

プランを立てたり手順をつかんだりするのが苦手

聞いている内容がわからない ⇒ 聞くことそのものが苦手

- ★声をかけてから始める
- ★話や説明は少なめにする / メモを手渡す
- ★やり方のヒントを伝える
- ★「それでOK!」という追認
- ★机間指導での小さな声かけ
- ★学習の達成度に応じた個別課題を与える

内容が簡単すぎると感じている

- 手いじりや爪かみが多い
- 足や上体が動いている
- 姿勢が安定していない
- ぼんやりとしている

何とか集中を維持させようとしている

どこに注意を向けていいのかわかめていない

- ★まず周囲を落ち着かせる
- ★分割型授業 ⇒ 内容に変化をつけて切替ポイントをつくる
- ★みんなで背伸び、給水タイムなど、切り替えの時間
- ★ヘルプの仕方を決めておく

周囲の刺激の影響を受けやすい ⇒ 注意の移りやすさ

- 落ち着きがない
- 集中が続かない
- キョロキョロしたり、フリーズしたり...

新しいきっかけが欲しい

得意・不得意の差が大きい

国語よりも算数の方が得意

わかればやろうとする気持ちはもっている

- ★認めた上で、プラス面とマイナス面の仕分けをする
- ★(やる気があるだけに) 学習のルールを学ぶチャンス!

- 国語よりも算数のときの方がにぎやか
- 参加態度にムラがある

周りのことが見えていない

学習を投げ出していない



すき間の時間の使い方がわからない

やり方やヒントを知りたい

次にやることがわからない

同じような悩みや不安を感じている

これもSOSのひとつ!

プライドの高さ

やる手順や学習内容がわからない

- すぐに言いつけに来る
- 文句や注文が多い

自分も見たい

- すぐにあきらめてしまう
- はじめからやろうとしない

これまでに、失敗体験が多かった

正義感の表れ ⇒ 認めてほしい

- ★聞いてあげるが、聞く時間やタイミングを決める ⇒ 「受け止め」と「無視」の使い分け
- ★些細なことでも、肯定的な声かけを試してみる

不安 ⇒ 見通しがもてていない

- ★「できそう」なことを示す ⇒ 得意なこと、手伝い、ワークなどの作業課題
- ★失敗を受け入れるパフォーマンスを見せる (雰囲気づくり)

- これらのことは、あくまでもヒントの一つです。見立ての視点としてはいろいろあると思いますが、次のようなところから考えてみるのはいかがでしょうか。
- ・理解・発達の側面 ... 学習の習得度、発達段階(年齢や理解の度合い)、理解の偏り など
- ・心理・情緒的側面 ... 気持ちのコントロール、自己肯定感、その日そのときの心理状況 など
- ・身体・運動的側面 ... 感覚の課題、生活(睡眠・食事)のリズム、身体の使い方 など
- ・社会・環境的側面 ... クラス集団や周囲との関係、家庭でのかわり、二次的に起こる問題 など
- 大切なのは、いろいろな角度から見立てを想像してみることだと思います。ここに書かれていることもちょっと参考にして、一つに決めつけず、やりながらみんなで考えていってもらえればありがたいです。

